

しょうがいがあつても

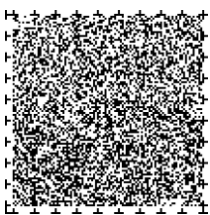
小 四

わたしの妹は、生まれつき耳にしよ
うがいがあります。周りの音を聞きた
めに、ほちよう器をつけています。そ
れをつけると半分ぐらいは音が聞こえ
るので、いっしょに歌をきいています。
また、周りの人とコミュニケーション
をとるために、ろう学園に通つて手話
を勉強しています。

時々、わたしは妹といっしょに、ろ
う学園へ行きます。ろう学園の子ども
達は、みんなほちよう器をつけていて、
「あゝ。」や「うゝ。」と言いながら話
をしていました。それを聞いた時は、

話している言葉の意味がよく分かりま
せんでした。しばらくすると、わたし
はろう学園の子ども達にじろじろ見ら
れてはすかしくなつてしまい、お母さ
ん達が待っている部屋に入つてしま
いました。同じ子どもなのに、不思議な
感じがしました。

耳にしようがいがある人は、赤ちゃ
んの時、とても大変だとお母さんから
聞きました。赤ちゃんは耳から聞こえ
てくる言葉で、自然に言葉を覚えてい
くそうです。でも、耳にしようがい
あるということは、これができません。
言葉を自分のものにするのがとてもむ
ずかしいのだそうです。わたしは、こ
のことを知つて、音が聞こえ
ることは人間にとつて、とて



も大切なことなのだと思います。

耳にしようがいのある人は、音が聞こえないために、今、何がおきているのかを、耳でしようほうをつかむことができません。

平成二十三年の東日本大しんさいの時は、ろう学園の先生が、地しんの様子やひなんの仕方を、目で見て分かるように、分かりやすく説明してくれたそうです。ろう学園にいる時は大じょうぶだけれども、もし、一人で道にいたらどうなってしまふのだろうと考えると、こわくなつてしまいました。

妹はわたしの大事な家族なので、周りの様子が分からないときは、できるだけ手助けしたり、教えたりしたいと思います。でもそれは、妹だけではない

く他のしようがいのある人にも同じです。自分にできることは何かをよく考えて、耳の聞こえない人には、手話で伝えたりほちよう器のそばで話したりしたいです。また、目の見えない人には、いっしょに手をつないでゆっくり歩いて方向を教えたり様子を伝えたりしたいと思います。

